

話題の新刊 おすすめの本

私と20世紀のクロニクル

ドナルド・キーン 作



日本文化を世界に紹介して半世紀になる作者の自叙伝。ニューヨークで過ごした少年時代、戦争の影が迫るころ没頭した「源氏物語」、日本で出会った終生の友のこと。そして、85歳になる現在の生活を綴る。

女たちのブラジル移住史

小野 政子ほか 作



ブラジル移民が始まって100年が経つ。昭和の初めに家族とともにブラジルに渡った女性や10年程前に仕事で渡りそのまま永住を決めた女性など、ブラジルに生きる日本女性6人が協同で書き綴った。

いい夢ひとつおあずかり

小松原 宏子 作



夢を食べるバクのバク太郎さんが頭取をつとめる夢銀行には、夢をあずけることができます。利子にはおまけの夢がついてきます。やさしい町の人びとや心に傷をもつ悪魔がくり広げる心やさしい物語。

図書館へでかけよう。

【休館日】12/3(月)10(月)17(月)23(祝)24(月)

【月末整理】28(金)

【年末年始休み】29(土)~1/3(木)

★おはなしキャラバンとおたのしみ会★

会場 中央公民館2階

日時 12/15(土) 10時~11時30分



その他 おすすめの本

一般向き

- ◆父のトランク (オムハン・パルク)
- ◆完四郎広目手控文明怪化 (高橋 克彦)
- ◆遊戯 (藤原 伊織)
- ◆新十戒 (シドニィ・シェルダン)
- ◆獣医からもらった薬がわかる本 (浅野 隆司)

児童向き

- ◆冬の龍 (藤江 じゅん)
- ◆はたらきもののなまけもの (斉藤 洋)
- ◆野をわたる風にいる (メッラー)
- ◆あるひあひるがあるいていると (二宮 由紀子)
- ◆ドキドキ! 仙人伝説 (吉川 豊)

〈出自(シュツジ)を問う〉

人権教育 128

ともに生きる

人は誰でも、多かれ、少なかれ、人に知られたくないことを秘めています。特に、両親や親戚などの血縁関係を話題にされ、比べられることは、不愉快なものです。「育ちがわかる」「親の顔が見たい」「親が親だから」などと言われ、いやな思いを経験された人も、いらっしゃるのではないのでしょうか。最近、家系が話題になり、父や祖父の経歴で本人を評価される傾向にあるのは、問題ではないかと思っています。もちろん、両親や祖先のことをしのび、敬(ウヤマ)い、祭ることは大事なことです。でも父母、祖父母や叔父、叔母の経歴などは、本人とは関係ないことではないでしょうか。いきなり、「あなたは、どここの、だれだれさんですか」と尋ねられ、意図(イト)がわからず、返答に窮(キユウ)することがありますよね。私なら「そうですが、何か?」と問い返したくなります。みなさんはどうでしょうか。

「出自」とは(「広辞苑」による)

① 出どころ。生まれ。 ② 出生と同時に、血縁に基づいて、制度的に認知・規定される系譜上の帰属。

中島弘之

市民文芸

《麦の芽短歌会 多久麦の芽互選》

財を捨て恋に生きた百蓮の
生きざま思ふ秋の夜更けに
ためらいを振り切るおもいで入居の大地
今を生きてる無常の聖域
迎 春代
植えし覚えあらねど庭にところ得て
水引草の年ごとに咲く
川浪 信子
老二人玉葱植えに精を出す
孫大好きなカレーの素を
福島 那智子
景観を損なう理由に切られたる
松あわれなりトラックの背に
尾形 節子

《諧樹句会 諧樹句会互選》

遠き恋かたる老どち秋桜
不二見恵美子
楡紅葉晩年燃ゆるものの欲し
松尾 孤状
コンバイン稲刈り鎌も乗せてくる
大坪 蒙仁
小太鼓の手振りよき児や秋祭
山口 秋子
我一人吾が子も一人よ秋深む
春田 泰子

《多久川柳会 西山残月選》

青虫をちようちようにする大根葉
修
山や野に朱色織りなす彼岸花
昭子
温暖化に合わせて花もくるい咲き
岳生
真夜中は手を下ろしてた招き猫
弘子
バラ色の余生ぎゅうぎゅう締められる
チカ子